

デンマークに学ぶ高齢者福祉フォーラム 2014
リレートーク

「命こそ宝」と「カネになるか否か」のギャップ

デンマーク高齢者福祉の旅
山梨県：山田 駒平

★命こそ宝、命の平等

私がこの視察に参加したのは2003年、第12回目の視察団でした。定年退職の1年後のことです。

40年ほど医療関係の仕事をしてきましたが、日本の政府のいっかんした政策は、社会保障としての国民に対する医療保障をどう削るかであり、これに対して私たちの立場は「命こそ宝、命の平等」でしたから、次々とおそいかかる医療保障改悪政策に抵抗した40年間、現役時代の人生を送ってきたわけです。

★定年退職を機にデンマークへ

もちろん反対し抵抗するだけでなく、対案を医療現場の事実と努力、患者さんの実態や医療技術を根拠に示し提案もしてきました。

この現役時代、ことあるごとにヨーロッパ、特に北欧の進んだ社会保障制度も、参考にし、めざすべき目標として、関心を抱き勉強もしてきましたわけですが、現地を訪問して、その実態を学ぶ時間は得られませんでした。

定年退職の機にと探っていたところ、弁護士の窪田先生から、ひの社会教育センターが毎年ロスキレ市に高齢者福祉視察を行っている、つまり10年以上も定点観測をしていると紹介され、参加した次第です。

★デンマークの社会政策、を翻訳

内容は、第19回の報告書と今日の諸先輩のお話に譲ります、一言で「人間を中心にお



いた社会保障の国づくり」でした。

実はこの折、お世話になった夏代さんから、英文版の「デンマークの社会政策」をいただきました。

一見して、かなり日本の社会保障の実態に対する思想、政策、実際にわたる対案になっているではありませんか。夏代さんに対する礼儀と、さいわい自分の時間が少し使える環境になっていましたので、翻訳を始めました。

ところが、英語を単に日本語に翻訳しただけではだめなんですね。どんな考えとどんな条件を生かしながら、それぞれの政策が打ち出され実行されているのかがわかっていないと訳しようがないものが多いのです。初めて以後半年、夏代さんとのメールのやり取りは30回を越えました。

おかげでその翌年、私も会員になっている非営利・共同総合研究所からパンフレットにいただきました。今日まで1000部近く普及されてきたようです。講師として今日ご出席の夏代さんのご指導に心から感謝申し上げます。

★日本の介護の実態

さて私ごとになりますが、山梨の自家近くの特別養護ホームに入っていた母が先月95歳で亡くなりました。5年前に入所したときから車いすで、3年ほど前から寝たきりになりました。部屋は4人部屋、一人当たり畳3畳ほどのスペースにベッドでした。

毎食事時ゼリーの食事を介護士さんにスプーンで口に入れてもらっていましたが、初めて見たとき驚きました。

口がわずかでも開くと、居合い抜きのようなスプーンさばきでゼリーを押し込む。「何という機械的な仕打ちなんだろう」と怒りがこみあげたものでしたが、よく見ていると一人で10人もの同じ状態の入所者の食事を担当しているわけです。本当に一生懸命がんばってくれているのだ、と思い直すのに時間はかかりませんでした。

ホームの管理者に聞きますと、100人の利用者に対して合計60人の職員でケアしているのだそうです。

★時間が止まったような空間で

私が2005年に訪問したデンマーク、ヘルシンガーの老人ホームでは、120人に対し、230人のスタッフ、その中にはリハビリの理学療法士、作業療法士、ケースワーカーがそれぞれ複数を配置していました。

しかも職員の多くを占めるヘルパーは、…ロスキレの視察でも訪問した学校での説明によると…当時2年間で1860時間の講義や実習を受けた資格職でしたが、当時の日本で

はヘルパーの履修時間は260時間でした。その後日本でも現在2年間で800時間の履修に増えたもののデンマークには及びません(介護福祉士の受験資格は、助手など実務経験3年以上者は450~50時間の研修終了後)。註*

職員は余裕を持って個室の一人ひとりに対話しながら接していました。時間が止まっているようにさえ思えたものでした。

★自分の住んでいる地域で活かしたい

人間を社会の基礎におくデンマークと、“人間”と言いながら、企業のもうけ、カネのための労働力として扱う日本とのちがいを母の死をきっかけにあらためて考えさせられました。

12年前の視察旅行は私にとって人生のターニングポイントに当たって、実に深刻で楽しい課題を与えてくれました。いまも外から医療活動を支える活動にかかわっていますが、福祉介護とセットにして取りくむ時代に、デンマークで教えられたことをできる限り自分の住んでいる地域で生かして取りくもうとしているところです。

最後に、この旅を22年もセットし、まとめてくださった前館長の中能さんにあらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

註;日本とデンマークの介護制度の違いに注意。日本は介護保険、デンマークは税金で保障。日本のヘルパーはデンマークとちがい介護福祉士の資格職の下に位置する。デンマークのヘルパー資格は要請課程の時間数が2倍以上当てられている(1860時間⇔800時間)。日本はヘルパー制度をなくして介護福祉士に切り替えようとしており、その過渡期として資格制度をめまぐるしく変えてきたが、デンマークの教育時間数にははるか及ばない。